JCESニュース
Japan Comparative Education Society
NO.21

会長再任にあたって

会長　大塚　豊

先般の東日本大震災により２万人を超える死亡者および行方不明者という甚大な人的被害が生じました。福島原発事故の余波も大いなる不安や心配を引き続きわれわれに与えています。幸いにして（などと言うと不謹慎の誹りを免れませんが)、身体的被害という点では、本学会の会員諸氏の中からはお一人の3.11の被害者もでませんでした。但し、精神面は言うに及ばず、研究インフラ面での被害については報告を受けております。この場を借りて、震災により被害に遭われた会員諸氏に対して、心からのお見舞いの気持ちを表したいと思います。学会として、今回の災害に対して何を為し得るか、義捐金の募金も含めて、いろいろ考えもしました。しかし、長い目で見れば、単発的なイベントよりも、むしろ本来のわれわれの使命ないし職務を淡々と、いや今まで以上に真摯に続けていくことこそむしろ大切なのではないかと考えた次第です。また、今回の第47回大会前日に開かれた常任理事会では、スマトラ沖、ハイチ、四川と近年だけをとっても大地震や津波の被害を被った地域はわが国以外にもあることから、これらの地域も含めて、天災や災害が教育に与える影響およびそれらを克服する上で教育が果たしうる役割についての比較研究といったテーマでの研究の可能性について論じられました。これは初代会長の平塚益徳先生の口癖であった「Basic, Academic, Long term（基礎的、学術的で、長期にわたる)」研究という精神にも合致するものであり、わが学会にふさわしい研究上の目標ではないかと考えます。

本年、2011年という年は十干十二支で言えば、その28番目の辛卯（「かのとう、あるいは「しんぼう」）の年に当たります。中国後漢の時代に編まれた『白虎通』などものの本によれば、「辛」の文字はまさに「辛い」「苦しい」の意の他に、下に抑えられていたエネルギーが上に向かって吹き出す様を表すものであり、また「殺傷の意を含む」とのこと。一方の「卯」の字には茅が萌え出し繁茂する様を示し、ここから大災害や天変地異を含む思いがけない事態の出現と結びつけて解釈される年でもあるようです。思いがけないことと言えば、われわれの身近においても、会長として本学会の発展に大きな貢献をなされた馬越徹先生が、去る４月７日に享年69歳で逝去されました。先年より肺ガンの病魔と闘っていらっしゃいましたが、薬石効なく、彼岸へ旅立たれたのです。心から哀悼の意を表し、ご冥福を皆様とともにお祈りしたいと思います。大会では、大会実行委員会のご厚意もあり、有志により馬越徹元会長を追悼する記念展示の場が設けられ、馬越先生を偲ぶよすがとなったのではないかと考えます。

さて、３年前の会長就任に際して、三つの約束というか、目標を掲げました。一つは比較教育学という学問の守備範囲を学会として措定する手段として、『比較教育学事典』の編纂を行うこと、二つ目は学会ホームページの充実、三つ目にとくに近隣の関係学会との連携・交流強化であります。第一の目標については、準備および実施の可否をめぐる検討に１年を費やし、実質的な執筆・編集に２年をかけ、昨年の大会では、この大会までに完成品をお見せすると大言を吐きました。編集委員の方々とともに、できる限りの努力はしたつもりでありますし、何でも震災のせいにしてしまう昨今の風潮に同調するわけではありませんが、震災も確かに間接的な原因の一端となったことも含めて、未だ刊行には至っておりません。ようやく大会数日前に初稿ゲラを執筆者各位にお送りできたところです。原因はどうあれ、違約は違約、大変申し訳なく思っており、この場を借りて深くお詫びを申し上げるとともに、出版社のこれまでにも増したご協力を得て、可及的速やかな刊行を願うものです。今しばらくのご猶予をいただきたく存じます。

他の二つの目標であったホームページの充実および近隣の関係学会との交流強化も、会員各位から及第点をいただけるレベルからはほど遠いとは思いますが、学会紀要創刊号からの電子化およびホームページ上での公開や、近隣諸学会との紀要交換をはじめとして、それなりに進めて参りました。ホームページ、ニュースレターなどを通じてご確

認いただければと思います。もしも、これらの仕事、さらには華々しくはありませんが、日常的な学会事務の維持運営において見るべきものがあったとすれば、それはひとえに会員の皆様からのご鞭撻、ご支援のお陰であり、さらには文字通り二人三脚で私を支えて下さった福留事務局長をはじめ、中矢幹事、安原幹事のご協力の賜物です。心からの御礼を申し上げて、３年間の会長としての仕事を締め括りたいと思います。ご支援、本当にありがとうございました。

ところで、冒頭に触れた東日本大震災の直後から「想定外」という言葉を何度聞いたことでしょう。かくいう私にとりましても、会長再任にあたっての挨拶をするなどという想定は微塵もなく、まさしく想定外でありました。まったく個人的なことですが、十干十二支を一巡した年齢の現在、もう一度初心に戻り、一人の会員として比較教育学というこの学問を本気で学び直そうと思い、さまざま計画を立てておりましたが、再任という事態により、相当の変更を余儀なくされてしまいました。こういう個人的な思いはさておき、大事なのは３年間に為してきたことも踏まえて、これから何を為そうとするかです。事典刊行という大目標が未完成でありますので、これを速やかに達成すべきことは論をまちません。執筆者の皆様、そして広く会員の皆様のお手元に届けることができるよう、さらに鋭意努力して参ります。

わが学会は微増ながら依然として会員の拡大傾向を示しております。しかし、拡大を手放しで喜ぶことは余りに楽観的です。量的拡大のなかに危機が存することもあり得ます。「比較教育学」とは何ぞやという本質的問いの部分での揺らぎです。それに向けての探究を示す試みの一つが事典編纂でした。学会として、この根本的課題に対する探求は引き続き行って行かなければなりません。研究方法論に関して、比較教育学研究方法の科学化が目指され活発な技術論的論議が交わされた70年代までと違って、それ以降はポストモダニズム、ポストコロニアリズム、ポスト構造主義、さらにはフェミニズムなど、いわゆるポスティズムと総称されるような思想に基づき、それまでのテクニカルな論議に代わって、教育を捉える根本的な視点・観点を変えることから新たな比較教育学研究の在り方を模索することが活発になりました。しかしながら、こうしたアプローチも世界的に見て、いくぶん行き詰まっているのではないかと思います。より技術論的な立場から注目されたエスノグラフィックな方法論も、データ収集や観察から理論化へ至る道筋は必ずしも明確ではなく、この点での技術論的な改善の余地があるように思われます。

その一方で、研究方法論の深化にのみ拘泥するのではなく、かつてアルトバック氏が喝破したように、学問的に「おもしろい」研究を積み重ねることのほうが、よほど建設的であるとの考えもあります。但し、この場合にも、あくまでわれわれのレゾンデートルである「比較」の２文字から離れるないことが重要でしょう。まさに「比較」を追究する研究を学会として後押しすることがこれまで以上に必要です。同時に、この学問の先端ないし最新の知見を含めて、若い世代、学士課程レベルの学生に「比較教育学とはどういう学問か」についてきちんと伝えられる正統派の素材も必要です。研究委員会、紀要編集委員会とも諮りつつ、学会としてこれらの研究に力点を置いてはと考えます。このように、研究の中身に関わる事柄だけを考えても、解決すべき課題は膨大ですが、可能なところから着実に進めていきたいと思います。

次に学会としての管理運営方法の改革です。いまや会員数が千名を越え、しかもその約１割が海外在住であることから、日常的な会員の名簿管理および会費納入の管理業務のみでも、たいへんな事務量となってきました。これは今後どの機関が学会事務を担当されるとしても、ますます大きな負担となっていくことは疑う余地がありません。そこでより上質かつ効率的な会員サービスを実現するために、総会での承認を経て、学会事務の外部専門業者への部分的委託を実行することになりました。こうした部分的外部委託により生まれた時間的余裕は、いっそう実質的な中身の充実に充てたいと考えます。とにかく学会の管理運営体制の改革元年となることを目指し、これから延々と続いていくはずの本学会の事務インフラの整備に努めたいと思います。

先に述べましたとおり、会長再任などという事態はまったく頭になかったことですから、種々の構想は未だ緒に就いたばかりであります。また、理事による間接選挙という仕組みでは、本当に会員多数のお気持ちを反映した結果であるかどうかは甚だ疑問でありますが、所定の手続きに従って選ばれたからには、改めて本学会のさらなる発展のために微力を尽くして参りたいと思います。何卒これまで以上のご支援、ご教示を賜りますようお願いを申し上げて、ご挨拶といたします。

第 47 回大会を終えて

大会準備委員会委員長　長島　啓記

第 47 回大会は 6 月 24 日（金）～26 日（日）、早稲田大学早稲田キャンパス 19 号館（アジア太平洋研究科）を主会場として開催されました。早稲田大学による大会開催は、第 8 回（1972 年、本庄校舎）、第 22 回（1986 年、東京ガーデンパレス）、第 36 回（2000 年、西早稲田キャンパス）に次いで 4 回目ということになります。

大会の日程では、24 日（金）の夕方にラウンドテーブルを設定し、また、自由研究発表のセッションを 25 日（土）・26 日（日）の午前・午後に計 4 つ設けるなどしてみました。ラウンドテーブルは 7 件の申し込み・発表があり、自由研究発表は申し込みが 159 件で、実際の発表は 153 件でした。課題研究Ⅰ「比較教育学は学士課程でどのように教えられているのか？」と課題研究Ⅱ「移民と市民－グローバル世界はどう理解されているか－」では、それぞれ興味深い報告と議論が交わされました。公開シンポジウム「大学院レベルでの教員養成・研修の国際比較」には、国際交流委員会の協力を得て上海師範大学の陳永明会員に報告をお願いしました。指定討論者として、文部科学省の磯田文雄高等教育局長にご参加いただきました。また、馬越先生の追悼展示が企画実施されましたが、有志の会員の方々に感謝申し上げます。3 月 11 日の震災は、大会の準備だけでなく、大会そのものにも様々な余波をもたらしたのかも知れません。参加者がどのくらいになるのか、前回、前々回の大会参加者数を勘案しながら見積もっておりましたが、最終的な参加者数は 446 名となり、予想を大きく下回ることになりました。準備委員会として、自由研究発表が始まる 25 日（土）の朝の受付をいかに混乱なく処理するか、また懇親会の飲み物や食べ物が足りるがどうかということを気にかけていたのですが、どちらも杞憂に終わりました。今振り返ってみますと、参加者数が少なかったことに帰するようです。準備委員会一同、大会を何とか終えることができたという感じを、日常の授業や会議に追われるなか、徐々に味わったというのが率直なところです。至らない点が多々ありましたことをお詫び申し上げますとともに、学会事務局、理事の方々、司会をお引受けいただいた会員、大会にご参加いただいた多くの会員の方々のご支援とご協力に心より感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。

≪第 47 回大会の各会場風景≫

大塚会長の挨拶

公開シンポジウムの様子

課題研究Ⅰ　国際会議場第 2 会議室の様子

課題研究Ⅱ　井深大記念ホール

■各種委員会・新委員長の抱負

●平塚賞委員会

委員長　宮腰　英一

第22回平塚賞候補作品の募集

平塚賞運営委員会は今年度も下記の要領で第22回平塚賞の候補作品を募集します。応募は自薦・他薦を問いません。ふるってご応募下さい。応募要領の詳細は日本比較教育学会ホームページまたは紀要巻末掲載の「日本比較教育学会平塚賞規定」をご参照ください。

記

1. 対象作品 ： 2011年1月～12月に公刊された比較教育学に関する著書・論文（分担執筆を含む。ただし連名のものを除く）
2. 応募要領 ： 本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」（MS-Word, PDF）に必要事項を記入し、当該著書・論文1部とともに提出すること。
3. 締め切り：2012年1月15日（必着）
4. 送付先：
   〒980-8576　仙台市青葉区川内27-1
   東北大学大学院教育学研究科内
   日本比較教育学会・平塚賞運営委員会
   委員長　宮腰 英一　宛
5. 問い合わせ先 ： TEL&FAX： 022-795-6130
   e-mail：miyakoshi@sed.tohoku.ac.jp

●紀要編集委員会

委員長　山内　乾史

学会の活動内容と水準を示すものは年次大会と紀要です。このたび、紀要の編集委員長となり、大きな責任を感じています。副委員長の竹熊尚夫先生（九州大学）、また編集委員、編集幹事各位のご助力を得て、より良い紀要の編集に務めたく思います。会員各位におかれましては、是非とも活発なご投稿をお願いしたく存じます。大学院生や若手の方だけではなく、中堅・ベテランの方の投稿もお待ちしております。

ただ、投稿については、憂慮すべき点が一つあります。現在、早速第44号の編集に取りかかっておりますが、投稿論文中の少なからぬものが字数オーバー他の理由で、形式審査で不合格になっております。せっかくの力作も形式審査ではねられてしまっては残念という他ありません。投稿される会員各位におかれましては、なにとぞ、投稿規定を熟読の上、ご投稿ください。編集委員会としても投稿規定をよりわかりやすく、また時代の変化に対応した形で改訂しようと考えております。よろしくお願いします。

【原稿提出先】
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学　大学教育推進機構
山内 乾史　研究室宛

●研究委員会

委員長　杉村　美紀

このたび、研究委員会委員長を担当させていただくこととなりました上智大学の杉村でございます。大役を仰せつかり身が引き締まる思いでございますが、微力ながら精いっぱい務めさせていただきたいと思っております。

研究委員会の今期事業計画としましては、第1に学会科研「人の国際移動と多文化社会の変容に関する比較教育研究」（基盤研究B，海外学術調査、2011年度～2014年度）として、海外研究協力者（トルコ、フランス、ドイツ、中国、韓国、オーストラリア）との連携のもと、外国人労働者、留学生、国際結婚、移民等の国際移動に焦点をあてた比較研究を実施いたします。本年11月5日（土）には、上智大学にてトルコ、中国、韓国、ドイツの海外研究協力者を迎え、公開研究セミナーを開催いたします。ご関心のある方々のご参加をお待ちしておりますので出席を希望される方は杉村(miki-s@sophia.ac.jp)までお問い合わせいただければ幸いです。

第2に東日本大震災復興への取り組みとして、別紙のとおり、本学会の特徴を生かしたプロジェクトの企画・実施を予定しております。至らない点も多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

●国際交流委員会

委員長　杉本　均

今期より日本比較教育学会の国際交流委員会の委員長を拝命いたしました杉本均です。3年間よろしくお願いいたします。今期の国際交流委員会は早稲田大学の黒田一雄会員、帝京大学の江原裕美会員、聖心女子大学の永田佳之会員、広島大学の秦由美子会員、大分大学の平田利文会員、台湾国立暨南国際大学の楊武勲会員の7名で運営していきたいと思います。事業としましては、台湾短期研究フェローシップの学会推薦につきまして旧委員会より引き継ぎ、継続していきたいと考えています。本年度のフェローシップについては前委員会より募集されていましたが、期限までに学会推薦の依頼はありませんでした。また通常の国際交流事業についても継続的に企画していきたいと考えていますが、特に東日本大震災に関連した企画も含めて、必要に応じて本学会研究委員会・大会実行委員会と協議協力しながら進めていきたいと考えています。

■各種委員会・新委員長の抱負

●ＲＩＣＥ担当理事

長島　啓記

引き続き、「比較・国際教育情報データベース（RICE）」を担当することになりました。RICE は、1993 年度より「日本における比較教育学及び国際機関・世界各国の教育に関する文献・資料の概要を含むデータベース」として、「国際化に対応した教育情報への需要に応えようとする趣旨から」構築されてきたものです。2011 年 6 月現在の集録件数は 52,416 件となっております。データの収集に努めるとともに、インターネット上で様々な資料・情報の検索が可能になっている現在、「RICE の在り方やデータの収集方法等について再検討が必要ではないか」という宿題につきまして、会員の皆様のご意見を伺いながら検討していきたいと考えております。

■ 報　告

●韓国比較教育学会との紀要交換協定締結

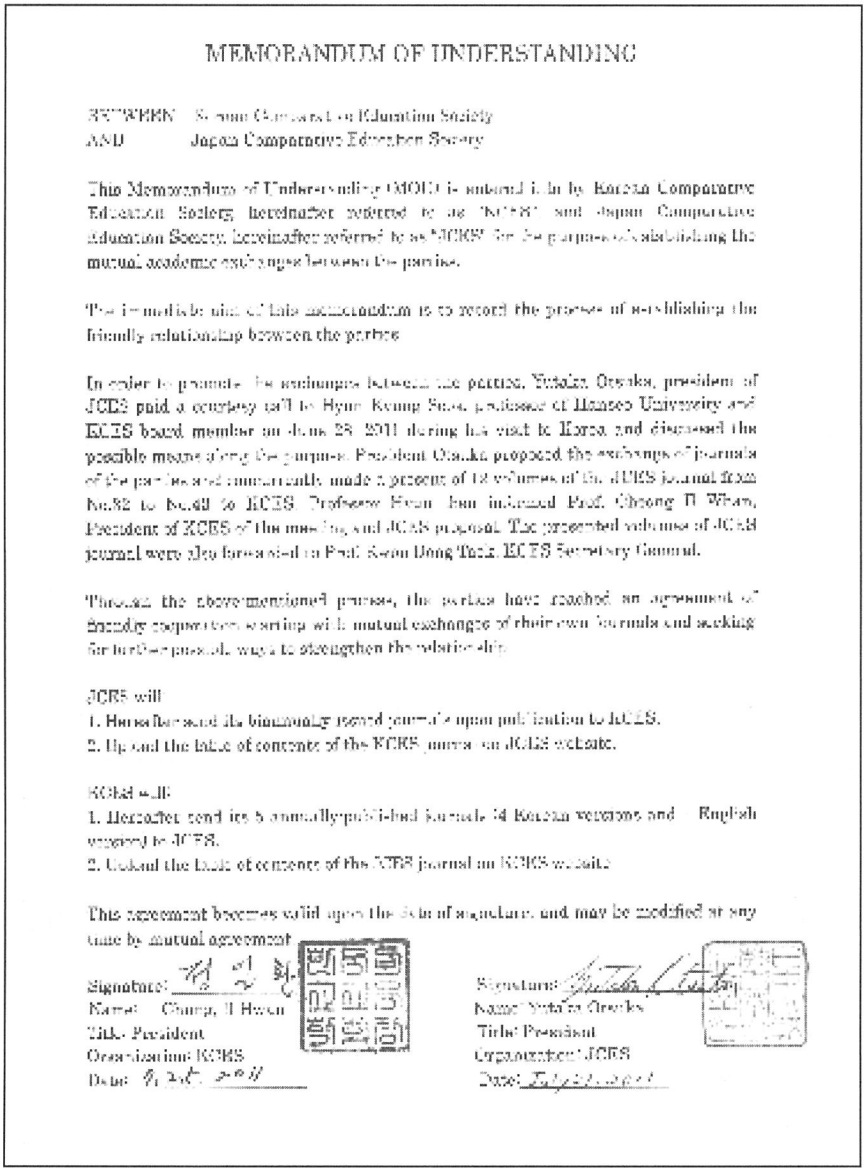
大塚　豊

６月末に訪韓の機会があり、その際に韓国比較教育学会代表者と話し合った結果、韓国比較教育学会との紀要の相互交換を開始することになりました。

同会会長の Chung Il Hwan 教授は現在大統領補佐官の職を兼務しておられ、当日は公務ご多忙のためお目にかかれませんでしたが、理事お二人とお会いでき、覚え書きを取り交わして正式に紀要交換を行うことで合意しました。

その後, 協議文書の文案についての遣り取りを経て、すでに紀要の交換が始まっています。今回の紀要交換は中国、台湾、オーストラリア・ニュージーランドに次ぐ第４番目のものになります。

なお各学会紀要の目次は本学会ホームページに掲載しており、本会会員が必要とされる論文については、事務局で複写し送付するサービスを行っています。



MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

BETWEEN　Korean Comparative Education Society
AND　Japan Comparative Education Society

This Memorandum of Understanding (MOU) is entered into by Korean Comparative Education Society, hereinafter referred to as "KCES" and Japan Comparative Education Society, hereinafter referred to as "JCES" for the purpose of establishing the mutual academic exchanges between the parties.

The intended aim of this memorandum is to record the process of establishing the friendly relationship between the parties.

In order to promote the exchanges between the parties, Yutaka Otsuka, president of JCES paid a courtesy call to Hyun Kyung Shin, professor of Hanseo University and KCES board member on June 28, 2011 during his visit to Korea and discussed the possible means along the purpose. President Otsuka proposed the exchanges of journals of the parties and concurrently made a present of 12 volumes of the JCES journal from No.32 to No.43 to KCES. Professor Shin has informed Prof. Chung Il Hwan, President of KCES of the meeting and JCES proposal. The presented volumes of JCES journal were also forwarded to Prof. Kwon Dong Taek, KCES Secretary General.

Through the above-mentioned process, the parties have reached an agreement of friendly cooperation starting with mutual exchanges of their own journals and seeking for further practical ways to strengthen the relationship.

JCES will
1. Hereafter send its biannually issued journals upon publication to KCES.
2. Up and the table of contents of the KCES journal on JCES website.

KCES will
1. Hereafter send its biannually published journals in Korean versions and English versions to JCES.
2. Upload the table of contents of the JCES journal on KCES website.

This agreement becomes valid upon the date of signature and may be modified at any time by mutual agreement.

Signature:
Name: Chung, Il Hwan
Title: President
Organization: KCES
Date: 9 Oct. 2011

Signature:
Name: Yutaka Otsuka
Title: President
Organization: JCES
Date:

■お知らせ

日本比較教育学会役員一覧（2011-2014年度）　（五十音順、敬称略）

●会　長　大塚　豊　（広島大学）
●事務局長　福留　東土　（広島大学）
●理事（○印は常任理事）
〔北海道・東北地区〕（2名）
小川　佳万　（東北大学）
○宮腰　英一　（東北大学）
〔関東地区〕（14名）
一見　真理子　（国立教育政策研究所）
今井　重孝　（青山学院大学）
○江原　裕美　（帝京大学）
沖　清豪　（早稲田大学）
北村　友人　（上智大学）
○窪田　眞二　（筑波大学）
黒田　一雄　（早稲田大学）
○近藤　孝弘　（早稲田大学）
○斉藤　泰雄　（国立教育政策研究所）
澤野　由紀子　（聖心女子大学）
渋谷　英章　（東京学芸大学）
○杉村　美紀　（上智大学）
○長島　啓記　（早稲田大学）
嶺井　明子　（筑波大学）
〔東海・北陸地区〕（3名）
近田　政博　（名古屋大学）
○西野　節男　（名古屋大学）
服部　美奈　（名古屋大学）
〔近畿地区〕（7名）
乾　美紀　（神戸大学）
小川　啓一　（神戸大学）
澤村　信英　（大阪大学）
○杉本　均　（京都大学）
田中　圭治郎　（佛教大学）
南部　広孝　（京都大学）
○山内　乾史　（神戸大学）
〔中国・四国地区〕（4名）
○大塚　豊　（広島大学）
黒田　則博　（広島大学）
安原　義仁　（放送大学広島学習センター）
吉田　和浩　（広島大学）
〔九州地区〕（2名）
稲葉　継雄　（九州大学）
○竹熊　尚夫　（九州大学）
●監査
青木　利夫　（広島大学）
久保田　優子　（九州産業大学）

●幹事（○印は常任幹事）
〔北海道・東北地区〕
伊井　義人　（藤女子大学）
〔関東地区〕
丸山　英樹　（国立教育政策研究所）
森下　稔　（東京海洋大学）
〔東海・北陸地区〕
カンピラパーブ・スネート　（名古屋大学）
〔近畿地区〕
森本　洋介　（京都大学）
〔中国・四国地区〕
○中矢　礼美　（広島大学）
○福留　東土　（広島大学）
○牧　貴愛　（広島大学）
〔九州地区〕
飯田　直弘　（九州大学）
●平塚賞運営委員会（10名）
委員長　宮腰　英一
委員　今井　重孝、江原　裕美、大塚　豊
近藤　孝弘、渋谷　英章、杉本　均、
竹熊　尚夫、西野　節男、山内　乾史
●紀要編集委員会（12名）
委員長　山内　乾史
副委員長　竹熊　尚夫
委員　今井　重孝、上田　学、植田　みどり、
小川　佳万、北村　友人、斉藤　泰雄、
近田　政博、南部　広孝、西村　幹子、
服部　美奈
編集幹事　乾　美紀（前期）、飯田　直弘（後期）
●研究委員会（7名）
委員長　杉村　美紀
委員　高　益民、近藤　孝弘、杉本　和弘、
園山　大祐、二井　紀美子、丸山　英樹
●国際交流委員会（7名）
委員長　杉本　均
委員　江原　裕美、黒田　一雄、永田　佳之、
秦　由美子、平田　利文、楊　武勲
●RICE担当理事
委員長　長島　啓記

■お知らせ

●新入会員（2011年2月～9月、入会申し込み順）

野崎　与志子（University of Buffalo（State University of New York））
Phin Chankea　（筑波大学大学院生）
Misochko Grigory　（筑波大学大学院生）
馬　璨婧（筑波大学大学院生）
野村　茉由　（聖心女子大学大学院生）
原　和久　（Auckland University of Technology School of Education 大学院生）
呉　世蓮　（早稲田大学大学院生）
ガトゥクイ（藤田）明香　（一橋大学）
KHAOPASEUTH SISAATH（広島大学大学院生）
ITH HUNLY（広島大学大学院生）
Heng Kreng　（広島大学大学院生）
Okurut Moses Jeje　（神戸大学大学院生）
ピヤタムロンチャイ　チャリダー　（立教大学）
下山　洋平　（早稲田大学大学院生）
田村　徳子　（京都大学大学院生）
桐村　豪文　（京都大学大学院生）
小竹　雅子　（広島大学大学院生）
Regusuren Bat-Erdene（東京工業大学）
林　若可奈　（大阪大学大学院生）
Wokadala James（神戸大学大学院生）
斉藤　美貴　（聖心女子大学大学院生）
小野寺　香　（東北大学大学院生）
TA　NA（慶應大学大学院生）
張　妍　（名古屋大学大学院生）
馬　芳芳　（お茶の水女子大学大学院生）
児玉　たまみ（愛知文教女子短期大学）
小池　亮介（神戸大学大学院生）
坂上　勝基（神戸大学大学院生）
村上　啓子（神戸大学大学院生）
根来　宏行（神戸大学大学院生）
山本　真実（神戸大学大学院生）
菅野　美可（神戸大学大学院生）
垣内　優衣（神戸大学大学院生）
橋場　論（立教大学）
子浦　恵（お茶の水女子大学大学院生）
山口　雅代（大阪府立大学・名古屋外国語大学）
鈴木　崇夫（名古屋外国語大学）
神内　陽子（名古屋大学大学院生）
セン　チャンダ（日本大学大学院生）
谷口　京子（広島大学大学院生）
金　秀妍（法政大学大学院生）
宮崎　幸江（上智短期大学）
宮本　浩紀（早稲田大学大学院生）
丁　健（東京大学大学院生）
興津　妙子（独立行政法人国際協力機構 コンサルタント）
石川　朝子（大阪大学大学院生）
Bhaila　Prasad Birendra（東洋大学大学院生）
申　智媛　（東京大学大学院生）
渡辺　淳志（東京大学大学院生）
侯　婷婷（東京大学大学院生）
秦　東興（名古屋大学大学院生）
石坂　広樹（鳴門教育大学）

（2011 年 9 月 4 日現在の会員数　1085 名）

◎お願い
現在学生会員は会費が 6,000 円となっておりますが、学生会員としてご登録されている方でご卒業された方は必ず、ご所属先、ご卒業年度を事務局までお知らせ下さい。

■お知らせ

●事務局業務の委託、および連絡先の変更について

現在、学会事務局は広島大学に置かれていますが、第47回大会の学会総会で承認された通り、事務局業務の一部を外部業者へ委託することになりました。委託先は**株式会社ガリレオ・学会業務情報化センター**です。今後、会員の皆様からの連絡は下記お願い致します。また、今後、員情報の更新はオンライン上で会員ご自身が行えるようになります（詳細は同封のご案内をご確認ください）。なお、年会費の納入先に変更はありません。

会員からの入退会・年会費、そのほかお問い合わせは下記にご連絡をお願いします。

〒170-0004　東京都豊島区北大塚3-21-10
アーバン大塚 3F
㈱ ガリレオ　学会業務情報化センター内
日本比較教育学会事務局
TEL: 03-5907-3750　FAX:03-5907-6364
E-mail: g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp

学会運営に関する連絡、図書・刊行物をご送付いただく場合はこれまでどおり下記、広島大学内事務局までお願いします。

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1
広島大学大学院教育学研究科
日本比較教育学会・広島大学内事務局
TEL & FAX: 082-424-6231
E-mail: jcesjimu@hiroshima-u.ac.jp

●年会費納入のお願い

本ニューズレターに、新しく導入しました学会業務情報化システムのご案内を同封しております。ご自身のご登録情報、年会費納入状況を確認できるようになりましたので、必ずご確認いただき、未納分がある方は早目の納入にご協力をお願い致します。会費は**通常会員 10,000 円、学生会員 6,000 円**です。紀要『比較教育学研究』は年2回発行です。本学会では当該年度の会費納入を確認後、発送のお手続きをしております。

なお、3年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕　00820-6-16161
日本比較教育学会事務局

〔銀行口座〕広島銀行西条南支店
普通　3126345
日本比較教育学会　一般

※銀行振込により納入される方は、お手続き時に必ず事務局までご一報下さいますよう、お願い申し上げます。

特に、所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しい場合がありますので、必ず事務局へご連絡をお願い致します。

※年会費のクレジットカード払いについて（海外在住会員限定）

海外会員の方々は年会費をクレジットカードにてお支払いいただけます。学会ホームページから支払い手続きが可能ですので、ご利用下さい。手数料の関係で、国内在住の会員については、これまで通り、上記郵便振替または銀行振込をご利用下さいますようお願い致します。

～ 紀要『比較教育学研究』バックナンバーの全文公開 ～

科学技術振興機構（JST）の運営するJournal@rchive 上で『比較教育学研究』第1号～37号までの紀要の全文をご覧いただけます。

会員各位の研究活動にぜひご活用下さい。近年の刊行分である38号以降については、同じくJSTのJ-STAGE 上で公開を進める予定です。

日本比較教育学会事務局
〒170-0004　東京都豊島区北大塚3-21-10　アーバン大塚3F
(株) ガリレオ　学会業務情報化センター
Tel　: 03-5907-3750　Fax : 03-5907-6364
E-mail　g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp
URL　http://www.gakkai.ne.jp/jces/